



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4316 号 2018.4.12 発行

### 2020へ 切実な願い

2020年、世界中の人たちが東京に集まるオリンピック・パラリンピックを機会に、あることを切実に願っている人たちがいます。「ヘルプマークを知ってほしい」そして「エスカレーターに立ち止まって乗りたい」。(ネットワーク報道部記者 栗原岳彦 玉木香代子)

### 知られていないマーク

赤地に白の十字とハートのマーク。外見ではわからない病気や障害があることを示すヘルプマークです。

このマークを多くの人に知ってほしいと願っている1人が、滋賀県彦根市の音瀬伊都子さんです。経営しているカフェに取材に伺いました。



ヘルプマークをつけていますが、その意味を知っている人に出会うことは少ないそうです。

「外出先で階段をゆっくりとあがっていると、当たられたりします。常に手すりのある所を探しながら歩いていて、緊張感が途切れないんです」

「駐車場で障害者のスペースに止めて怒られたこともあります。世の中には、私のような思いをしている人がたくさんいることを知ってほしい」

### 2020年までに

ヘルプマークは、2012年に東京都が作りました。

NHK ニュース 2018年4月11日



街を一緒に歩くと見た目では健康そうな音瀬さんの足取りはゆっくりとしていました。目はほとんど閉じた状態で一步一步、慎重に足を踏み出していきます。

音瀬さんは、18歳のときに白血病を発症。その影響で白内障や心臓病も患っています。視力が弱く、心臓に負担がかかるため、ゆっくりとしか歩けないのです。



去年7月にはJIS=日本工業規格で定める標準的な規格に追加され、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け援助や配慮を必要としていることを知らせる全国共通の表示として採用されています。



いま、全国の20の都道府県で配布されるようになりましたがまだ多くの人に知られるにはいたっていません。新宿の街頭でマークを知っているかどうか、50人に聞いたところ知っていたのは11人でした。

### 意味を知れば必ず変わる

音瀬さんはさまざまな国や地域から人が集まる2020年までに、見た目ではわからない困難を抱える人が、住みやすい社会を目指すための活動をしていて、「ヘルプマーク」も日本中に広まってほしいと考えています。

すべての都道府県でヘルプマークが配布されるように自治体に働きかけたり、マークの意味を知ってもらう講演を行



ったりしています。

その大切さを次のように話していました。

「以前、電車の中で私のヘルプマークを不思議そうに見ていた若い人がいたんです。するとスマートフォンで何か調べ始めたようでした。画面にはヘルプマークが見えました。そして、ふいに席を譲ってくれたんです」

「社会が必ずしも不寛容なのではない。マークの意味がきちんと浸透すれば、その人が困っているかどうか想像するのが当たり前前の社会になってくるかもしれない。そう思います」



### エスカレーターの正しい乗り方

「2020年までに知ってほしいこと」もう一つは、日々の通勤・通学で利用するエスカレーターの「乗り方」です。関東では、左側に人が立ち、右側は急ぐ人が歩くという乗り方が、「暗黙のルール」として広がっています。

でもこのルールに悩んできた人たちがいます。



“なんで立ってんだよ” “どけよ”

この春、小学校を卒業した横浜市に住む林姫良さんと母親の太佳子さん。

姫良さんは脳の障害で左半身にまひがあり、思うように左手で“つかむ”ことができませ

ん。  
 このため、エスカレーターでは、緊急停止しても体を支えられるよう「右手」で、「右側」の手すりをつかんで乗るようにしています。  
 ここで立ち上がるのがエスカレーターの“暗黙のルール”。  
 「なんで右に立ってんだよ」  
 「どけよ」

姫良さんは、右側を歩いて急ぐ人からこれまでにこんな言葉を浴びせられてきました。そのときの心境について「嫌な気持ちになった」とつぶやく姫良さん。



母親の太佳子さんも「悪いことをしているんじゃないかって、毎回自分を責めますし、すごいストレスになります」と訴えます。

#### ある日、娘がとった行動とは

太佳子さんには忘れられない出来事があります。

小学校の高学年になった姫良さんはある日、予想外の行動をとりました。いつものようにエスカレーターの右側の手すりにつかまったあと、すぐに左側に移りました。

さらにその場で後ろ向き状態になって、右手で左側の手すりをつかんだのです。

そばにいた太佳子さん、思わず「あっ」と心の中で叫んだといいます。

「私も他の人と同じになりたい、娘の気持ちの表れなんだろうか…」

でも、後ろ向きに乗るのはとても危険です。いつかは1人で行動する日が来る娘

のことを考えると、いてもたってもいられなくなったと言います。

#### 正解は“手すりにつかまり止まって乗る”

太佳子さんは、エスカレーターが設置されている商業施設や地下鉄の駅などに正しい乗り方を確かめました。

すると「右側も左側も止まって乗る」ことが正しいとわかりました。

動いているエスカレーターを歩くことで転んだりする危険性があるほか、緊急停止に備えて手すりにつかまって止まって乗る必要があるのです。

メーカーも同じように呼びかけています。

そのうえで母親の太佳子さんは控えめに訴えます。

「たとえ人とは違う乗り方をしているてもそういう人がいるという意識を持っていただきた



い。私自身も、自分の子どもを通して知ることができたので、いろんなところに目を配りながらいろんな人に優しい社会になってほしい。それが今の私の願いです」

### 合い言葉は“止まって乗りたい人がいる”

姫良さんたちのようにエスカレーターの正しい乗り方を広めたいと願っている人たちはほかにもいました。

脳梗塞などで体にまひが残った人のリハビリなどを担当する東京都理学療法士協会の人たちです。

ふだんの通勤でエスカレーターに乗り、歩いてくる人にぶつかられ転びそうになった人など「止まって乗りたい人」が世の中には少なくないことを知っているのです。

協会は先日、姫良さん親子とホームページに載せる写真の撮影会にのぞみました。

エスカレーターの正しい乗り方を訴えるためです。



合い言葉は「止まって乗りたい人がいる」

東京都理学療法士協会の齋藤弘さんは「東京オリンピック・パラリンピックでは、世界中からさまざまな人たちが東京を訪れることになる。

誰もが安心して移動できる環境をつくっていくことはとても大事でしょうし、変えられるチャンスだと思っています」と活動に寄せる思いを話していました。

6月には新宿でイベントを開くなど正しい乗り方の普及に向けて活動していく予定です。

ところで、ヘルプマークやエスカレーターについての切実な願いを、なぜ2020年の東京オリンピック・パラリンピックに託すのでしょうか。

その答えは、スポーツの祭典の根本原則を定めた「オリンピック憲章」にあ



ります。

「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指す」

2020年までの歩みが、私たちの社会をもう一度見つめ直す機会になればと思います。

## 社会保障費抑制へ 財政審、少額受診の負担増など提示 笹井継夫

朝日新聞 2018年4月12日

財務省は11日の財政制度等審議会で、社会保障費の抑制に向けた具体策を示した。費用対効果が低い新薬は保険適用を見送ったり、少額の受診時に一定の追加負担を求めたりすることなど、約20項目を並べた。6月にまとめる政府の新しい財政健全化計画に反映させたい考えだ。

社会保障費は国の予算の3分の1超を占め、今後も高齢化で増加が避けられない。財政再建計画では、その抑制策をどこまで具体化できるかが焦点となる。

財務省は高齢化で自然に増える費用はある程度認めつつ、今後予想される高額の新薬や医療技術の費用など、それ以外の費用の増加をなるべく抑えたい考えだ。具体的には、いまは新しい医薬品や医療技術は有効性や安全性をもとに保険を適用するか判断しているが、

今後は費用対効果の評価を義務づける。そのうえで、評価が低ければ保険適用を見送ったり、価格を引き下げたりする仕組みを導入するべきだとした。

「迷路」みたいな山形大病院、案内表示分かりやすく 朝日新聞 2018年4月11日  
デザインの考案に関わった東北芸術工科大学の学生と山形大学の学生たち＝山形市の山形大病院



どこに何科があり、どこに行けばいいのかわからない病院を脱却しようと、山形大学医学部附属病院（山形市）が内装を刷新している。デザインは、東北芸術工科大学の学生らが工夫。今後、増加が見込まれる外国人の患者にも対応できると期待されている。



3方向に分岐した廊下、ベタベタと貼られた表示……。国際化を進める同病院だが、院内はまるで迷路のよう。医学生へのアンケートでは「多くの患者さんが初回は院内で迷う」という声も出ていたという。



昨年5月から芸工大グラフィックデザイン学科の学生らの知恵を借り、誰にとっても分かりやすい内装づくりに取り組んできた。内科系や外科系、入院病棟など各部門を色で分けたほか、床に英語表記を付けた円形の案内表示を貼り付けた。中国語やロシア語など多言語に対応した院内の地図も作る予定だ。

デザインの考案に関わった芸工大の中村綾恵さん（21）は「患者さんは不安な気持ちで病院に来ると思う。病院が少しでも居心地のいい、緊張を和らげる空間になるよう意識した」と話した。

まず、総合受付や内科などがある2階の内装を刷新。2020年3月に始まる重粒子線がん治療に向け、2018年度中に1階と3階も変える予定だ。（宮谷由枝）

視覚障害でも見やすい教科書を 下松エンラジスターの会 藤野隆晃 朝日新聞 2018年4月11日

弱視などの、視覚に障害がある子どもでも読みやすい教材をと、文字や図表を拡大した教科書を作っている。会の名前にある「エンラジスター」は「～を大きくする」という意味の英単語に由来する。

**拡大教科書と通常の教科書を手を持つ、「下松エンラジスターの会」の山本典子代表＝下松市**

会が作った拡大教科書を見ると、通常の教科書で半ページほどの図表が、見開きで展開されていた。「薄い色の文字が分からない」「行間が詰まっていると読みにくい」など、何が見えにくいのかは人によって異なる。本人や学校の先生と相談を重ねて、単に字を大きくするだけではなく、文字や線の色使い、レイアウトにも気を配る。



2006年、山口県下松市に誕生した。これまでに約40冊の教科書の拡大を手がけてきた。文部科学省から依頼を受け、教科書会社から送られてきたデータを元に作業に取りかかる。1冊の教科書の編集には5カ月ほどかかるという、8人の会員で手分けして作業を進める。

**認知症介護に「知恵袋」 加古川の団体が冊子**

神戸新聞 2018年4月12日



認知症介護の「知恵袋」を発刊した「加古川元気会」のメンバー＝加古川市野口町長砂、リパティかがわ

認知症の人と介護者がともに穏やかに暮らせるためのノウハウを共有しようと、市民団体「加古川認知症の人と家族、サポーターの会（加古川元気会）」が、会員の寄稿を冊子「知恵袋－寄り添って思うこと－」にまとめた。会話や入浴、服薬管理など、実体験に基づく約60の知恵を紹介している。

認知症当事者を含む5人が編集に当たり、会員40人の投稿を13項目に分けて掲載した。その一つ「会話・コミュニケーション」に多く

の声が寄せられた。

例えば、夕方になると「魚を買いに行く」と言う認知症の人には、「日曜で市場が休み」「台風で漁がない」と、善意のうそをつく。旅行の際はなじみの旅館に宿泊するなど行程を分かりやすくし不安を和らげるなど、本人の気持ちに寄り添いながら、介護者も前向きに過ごすためのコツが寄せられた。

このほか、誤嚥の防止策や排せつ後の片付けなど、各自が実践している手法を掲載。100円ショップの製品を活用するなど、工夫がうかがえる。編集委員会代表の岡部美智子さん（80）は「懸命に介護してきた中から生まれた知恵ばかり。読む人にとって何らかの支えになるはず」と話す。

兵庫大による高齢者に優しいおせちのレシピや、会員の中島友子さんが介護生活からつづった詩も掲載している。A4判40ページ。200部。無料配布しており、希望者には電子データでも提供する。（広岡磨璃）

**総社でフィル問題の再就職面接会 元利用者31人が参加** 山陽新聞 2018年4月12日

株式会社「フィル」（倉敷市真備町川辺）が就労継続支援A型事業所を閉鎖し、障害者を大量解雇した問題で、総社市やハローワーク総社などは11日、同市内で再就職のための面接会を開いた。元利用者31人が参加した。

総社、倉敷、赤磐市などから企業、A型事業所、就労移行支援事業所の計18社・事業所がブースを構えた。参加者は履歴書を示しながら、勤務時間や作業内容を尋ねた。

精神障害のある女性（45）＝高梁市＝は「収入が途切れて経済的に苦しい。早く次の仕事を見つけたい」。ブースを設けたA型事業所の担当者は「障害者の雇用を守るため、就労意欲の高い人を採用したい」と話した。



#### 再就職に向けて採用担当者と面談する障害者（手前）

冒頭、片岡聡一総社市長は「A型事業所が安心して運営できるよう制度（改正）について国に提言していきたい」とあいさつし、県市長会を通じて要請していく考えを示した。

面接会は13日午後1時から倉敷市民会館（同市本町）

でも開かれる。

フィルは3月、倉敷市内のA型事業所3カ所を閉鎖し、倉敷、総社市などの障害者約170人を一斉に解雇した。

### 「のびっこらんど」が再開、南相馬・原町に移転 障害児支援事業所



福島民友 2018年04月12日  
開所した「のびっこらんど原町」の訓練室とスタッフ

県福祉事業協会は9日、南相馬市原町区に障害児通所支援事業所「のびっこらんど原町」を開所した。東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の影響で休業していた同市小高区の「のびっこらんど小高」が同市原町区に移転し、名称を変え、新たに事業を再開させた。

未就学児対象の児童発達支援と、6～18歳対象の放課後等デイサービスの2事業を展開する。保育士と児童指導員の資格を持つ計3人が常勤し、毎週水曜日には言語聴覚士も業務に当たる。発達障害のある子どもが日常生活や社会性などを身に付ける訓練を行い、心身の発達を支援する。

定員は1日各10人。同施設にはトランポリンなどの遊具が備わる広々とした訓練室のほか、集団、個別指導室、シャワー室、更衣室などが設けられている。

利用時間は、児童発達支援が午前10時～正午、放課後等デイサービスが午後2時30分～同4時30分。土、日曜日、祝日は休み。同施設は利用者の申し込みを随時受け付けている。問い合わせは同施設へ。

### 包括ケアの拠点に 彦根「森のお家」開所祝う



中日新聞 2018年4月12日  
開所式で「365日の紙飛行機」を歌うスタッフと子どもら＝彦根市高宮町で

彦根市高宮町に完成した地域包括ケアステーション「森のお家（うち）」で十一日、開所式が開かれた。

重症心身障害の人、医療的ケアが必要な子どもや大人が利用できる多機能型のデイサービスや、訪問看護ステーションを完備。障害児の相談支援などにも取り組む。

建物は木造一部二階建てで延べ二百九十七平方メートル。開館時間は午前九時～午後五時で、土日、祝日は休み。訪問看護は休日、夜間を問わず対応する。

開所式には、利用者や保護者、市、近隣町の福祉関係者ら七十人が出席。

利用者の子どもは「楽しく元気に遊ぼう」とメッセージを寄せ、保護者の一人は「不安から希望に変わることができた」と感謝の言葉を述べた。

柴田恵子理事長は「利用者や介護する人たち、地域の方など、皆が集まって安らぎ、ほっとできる場所にしたい」と話した。(問) 森のお家＝0749(49)2531

(前嶋英則)

## 【主張】終末期の指針 タブーとせず語り合おう 産経新聞 2018年4月12日

人生の最期をどのように過ごすか。終末期の医療などについて厚生労働省のガイドラインが11年ぶりに改訂された。

病院内での医療中心から、自宅での看取(みと)りが増える現状を踏まえた。高齢社会で直面する重い課題である。

近年、欧米で進む「アドバンス・ケア・プランニング(患者の意思決定支援)」の考えを取り込んだ。

本人と家族や友人、医療・ケアチームが繰り返し話し合い、「その時」にどうするか意向を共有しておくことを求めた点が新しい。こうしたプロセスを経ることで意思表示できない場合でも、本人が持っていた考えを最大限尊重した選択ができるようにする。

これまでの指針は、富山県射水市民病院で末期がん患者の人工呼吸器を取り外すなど延命措置が中止された問題を契機に平成19年につくられた。主に病院で医療行為の開始や中止を決定する場合を想定し、意思確認ができない場合などには、複数の専門家からなる委員会の設置などを求めている。

最期を過ごす場所として自宅も選択肢となってきた。

命を永らえるだけの延命治療を受けたくないと思っている人は少なくない。しかし、それを書面にしておくことには相当のエネルギーや覚悟がいる。映画などをきっかけにエンディングノートやリビングウイル(生前の意思表示)が話題になったが、実際に作成している人はわずかだ。

医療現場では本人の意向に反し救急搬送され、求めている延命治療が施される事例もある。

書面を作成すれば済むというものでもない。疾患や医療の見通しなどによって治療をどうするか判断は異なる。本人の人生観や死生観、望む医療の形を全て書き込んで準備しておくことは困難だ。日頃から家族や友人らと意向を共有しておくことは欠かせない。

在宅医療に携わる医師のなかには、どんな最期を迎えたいかを、診察中に気兼ねなく聞く人もいる。何度も聞くのは気持ちは変わるものだし、聞くことで患者が真剣に考えるようになるからだ。

千葉県松戸市では介護保険のケアマネジャーが要介護高齢者の意思決定を支援し、家族や医療職、救急などと意向を共有する試行が始まっている。死を語りあうことをタブーにしないチームをつくることが何よりも重要だ。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

